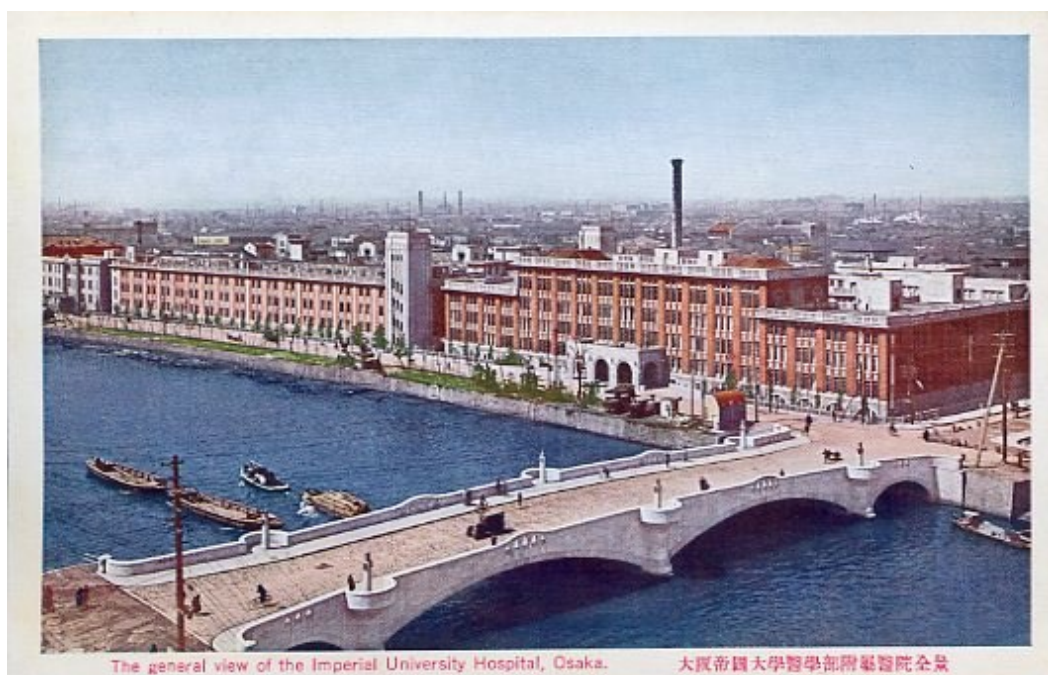




目次：

大阪帝国大学医学部附属病院	1	受贈刊行物	6
大阪大学アーカイブズの創立と国立大学文書館	2	大阪大学アーカイブズ兼任教員名簿・	15
『大阪大学アーカイブズ所蔵	4	大阪大学アーカイブズ運営委員会委員名簿	
大阪皮膚病研究会関係文書目録』の刊行について		業務日誌(抄)	16



大阪帝国大学医学部附属病院

写真は、「大阪帝国大学医学部 絵葉書」のなかに収められた「大阪帝国大学医学部附属病院全景」絵葉書です。医学部附属病院は、大阪医科大学附属病院として1924（大正13）年に落成しました。当時、東洋における最良の病院として内外に宣伝されました。この絵葉書の作成年代は記されていませんが、1938（昭和13）年12月に竣工した新館（東館）が描かれていないことから（新館の建築には3年8カ月の歳月を要しました）、それ以前のものであると思われます。さらに、この絵葉書集には1934年3月に完成した理学部の絵葉書も収められていることから、同年以後のものであることがわかります。（菅 真城）

大阪大学アーカイブズの創立と国立大学文書館

大阪大学アーカイブズ室長 阿部 武司

はじめに

大阪大学アーカイブズが発足して1カ月ほど過ぎた2012年11月4日(日曜日) 午前9時から正午まで明治大学駿河台キャンパスを会場として、日本学術会議経済政策史資料保存促進分科会の主催によるパネル・ディスカッション「経済政策史資料保存促進のために、いま何が必要か?—公文書管理法と現代経済史・経営史資料」が開催された。このパネルは経営史学会の共催でもあり、同学会第48回全国大会パネル・ディスカッション2を兼ねるものであった。当日は、中村尚史東京大学教授の趣旨説明に続いて、過去数年間、『通商産業政策史』の編纂に携わってこれるとともに上記分科会を主導されてきた尾高煌之助一橋大学名誉教授の基調報告「経済政策史資料保存促進のために」があった。その後、中村教授の司会のもとで、高山正也国立公文書館館長、石原一則神奈川県立公文書館資料課長、阿部、吉川容三井文庫研究員、瀬畑源一橋大学特任講師、湯沢威学習院大学名誉教授が、尾高報告へのコメントを交えつつ短めの報告を行った(肩書きはいずれも当時)。以下は、その際の私の報告の概要である。

1. 大学文書館の増加傾向

欧米に限らず韓国など一部のアジア諸国も含む外国の大学では文書館(「ぶんしょかん」と読む。またはアーカイブズ(Archives)ともいう)がしばしば設置されている。日本の私立大学でも創立者、教員、卒業生等の事績の顕彰を中心とした記念館が設けられていることが多く、その中に当該大学の歴史的資料(通常は「史料」とは書かない)もしばしば保存されている。また、恒久的な大学史編纂室を設置し、そこに歴史的資料を保管している私立大学もかなり多い。それらの施設も一種の大学文書館であり、そこに勤務するアーキビストや職員の団体である全国大学史資料協議会への加盟大学が増加傾向にある事実から推測して、そうした機関は数を増しつつあるとみられる。

国立大学で大学史編纂室が置かれることもしばしばある。それらは暫定的に設置される場合

が多かったが、21世紀になる頃から旧帝国大学や広島大学など大規模な国立大学で文書館が相次いで設置された。それら以外の国立大学では、近年の厳しい予算および人事の状況からみて新設はなかなか難しいものの、関心を持つ教職員の数は増えている。



大阪大学アーカイブズがおかれている管理棟

2. 国立大学文書館のミッション

私が大阪大学で文書館の設置を進める過程で、図書館、博物館との相違が何か、という問いにしばしば直面した。その際には図書館が書物や雑誌、博物館が標本の収集を行うのに対して、文書館では主として公文書を収集および選別することが目的であり、3者はそれぞれ固有のミッションがあると回答してきた。

もっとも、これは縦割り行政が支配的な国立大学のなかでの話であり、外国の大学や日本の私立大学では3種の機関が明白に分化しておらず、たとえば図書館内に文書館的部門が設けられていることがしばしば見受けられる。とはいえ、文書館がほかの2つの機関に対して独自のミッションを持つことは確かである。

本年10月1日に設置された大阪大学アーカイブズの当面の目的は、「本学における法人文書の適切な管理のための調査研究及び本学の歴史に関する資料の適切な管理を行うことにより、本学の円滑な管理運営に資するとともに、教育、研究、社会貢献に寄与すること」(大阪大学アーカイブズ規程第2条)である。

なお、大学の歴史とは関係のない、歴史学で使われる「史料」あるいは文書（もんじょ）は国立大学文書館では通常取り扱わず、大阪大学の場合、主に各部局の研究室で保管されている。

3. 公文書管理法との関係

2011年4月より施行されているいわゆる公文書管理法の対象には国立大学法人も含まれることとなった。具体的には、保存期間が満了した法人文書を（1）永久に現用文書とみなして保管し続ける、（2）国立公文書館に移管する、（3）内閣総理大臣（内閣府）から「国立公文書館等」としての指定を受けた当該大学の文書館に移管し、1年間以内に整理して目録を作り、それによる利用請求を受けた場合、個人情報などいくつかの情報を適切に処理した当該資料を原則として公開する、（4）廃棄する、以上4つの選択肢のいずれかをすべての国立大学法人は選ばなければならない。（4）に関しては、行政文書の場合、内閣総理大臣の承認が必要であるが、独立行政法人等ではそれが不要である。大阪大学は（3）を選択し、来年3月末までに内閣府から指定を受けるべく、準備に努めているところである。（注1）

公文書管理法によれば、あらかじめ移管すべき公文書（国立大学文書館では大学当局が作成する法人文書）を文書ファイル管理簿に定め、そのすべてを「国立公文書館等」に移管するが、当該文書の廃棄は認められない。アーキビストの力量が資料の選別と廃棄において発揮されることからみて、この法律は運用が甚だ窮屈である。公文書以外の資料（国立大学文書館では名誉教授や卒業生からの寄贈資料や大学の刊行物など）については、それらを受け入れ、選別・廃棄を含む整理を行ったのちに公開する「歴史資料等保有施設」なる制度が設けられ、その指定は同じく内閣府により行われる。大阪大学アーカイブズでは、いくつかの先例に学んで法人文書資料部門と大学史資料部門の2つの部門を設けた。前者は保存期間が満了した法人文書のうち歴史的価値を有するものを取り扱う「国立公文書館等」、後者は広く大阪大学の歴史に関する資料を管理する「歴史資料等保有施設」に、来年4月以降指定されることを想定している。（注2）

以上の説明からもうかがわれるように問題点がないわけではないが、公文書管理法の制定により、放置しておけば残らない可能性が大きかった公文書が国立大学においてもきちんと残される仕組みが一応整ったことの意義はまことに大きいといえよう。

4. 大学におけるアーキビストについて

文書館を様々な戦略の拠点として活用している多くの外国とは異なり、日本では図書館や博物館に比べて文書館の認知度がきわめて低い。図書館には司書（librarian）、博物館には学芸員（curator）という専門職員がそれぞれ置かれるのと同じく、文書館にはアーキビスト（archivist）が配置されなければならない。しかしながら、このアーキビストには適切な訳語がないし、資格制度も存在しない。科学研究費でも図書館学、博物館学の範疇は確立しているが、文書館学のそれはなく、また各大学での文書館学あるいはアーカイブズ論の講座やコースもようやく一部で設けられ始めているところである。

経営史学会会員が大学文書館の設置・運営に関わることもしばしばあろうが、公文書管理法が適用される国立大学の場合、当該教員以外の優秀なアーキビストの採用が不可欠である。教員はたとえすぐれた歴史家であったとしても、優秀なアーキビストには、まずなれない。アーキビストは広い視野と広範囲に及ぶ教養と長年の経験とを兼ね備えた、文書に関する専門職なのであり、担当教員は、優秀なアーキビストを採用して、その雇用を保証し、さらに必要な予算や設備を確保するなどの措置を、大学当局と粘り強く交渉する役割、つまり行政に徹すべきだと私は考えている。それは大学教員がしばしばいやがる「雑用」の一部であろうが、それなくして大学文書館は成り立たないと思う。

（注1）（注2）その後、順調に進捗し実現した。



『大阪大学アーカイブズ所蔵 大阪皮膚病研究会関係文書目録』の刊行について

大阪大学適塾記念センター(アーカイブズ・総合学術博物館兼任) 廣川 和花

はじめに

大阪大学アーカイブズの所蔵資料に、「大阪皮膚病研究会関係文書」がある。ほとんどの人にとって、聞き慣れない団体名をもつこの会が、大阪大学とどのような関わりがあるのか、想像もつかないのではないかと思う。筆者は、この資料群がアーカイブズに寄贈される経緯に多少関わったことから、本資料群を素材としたアーカイブズ学の研究を行っており、大阪大学アーカイブズのご協力を得て、この度標記の目録を刊行するにいたった。目録刊行をきっかけに、大阪皮膚病研究会とこの資料群を本ニュースレター上に紹介する機会をいただいたことを嬉しく思う。本稿はあくまでこの資料群を概観的に紹介するものであり、興味を持たれた方は、是非この目録に収録した解題と利用提供の考え方を記した論考をご覧ください。

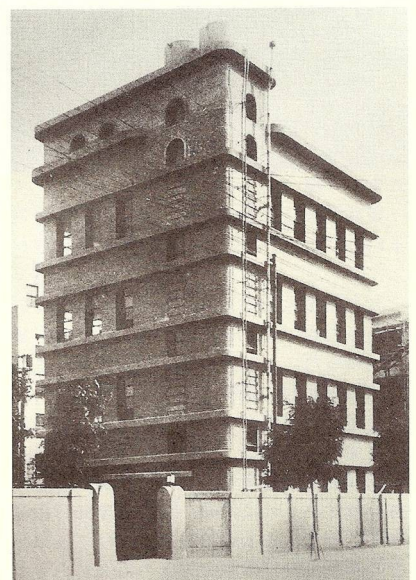
1. 財団法人大阪皮膚病研究会とは

この名称から、ハンセン病という病気がすぐに思い浮かぶことはないだろう。それもそのはずで、この財団と大阪皮膚病研究所は、ハンセン病の治療研究支援を目的として、ある篤志家の寄附を受けて設立されたにもかかわらず、当時の社会的状況から「癩（ハンセン病）」をその名に冠することを避けたのである。

1929年にこの寄附を受けて、府立大阪医科大学皮膚科（皮膚科・花柳病〔性感染症〕科）教室教授桜根孝之進は、自らの後任の佐谷有吉と協力し、同教室内に「大阪皮膚病研究所」を設け、ハンセン病の治療と研究を推進した。府立大阪医科大学は、1931年5月に大阪帝国大学の医学部へと改組される。1931年6月には、大阪帝大附属病院内の敷地に大阪皮膚病研究所の建物が完成した。1934年に大阪帝大に微生物病研究所（微研）が発足した際に、この研究所は微研癩治療研究部として合併されることとなった。ここでの研究を援助するため、先の寄附金を基本財産とし、

1935年に「財団法人大阪皮膚病研究会」が設立された。

こうして、大阪帝大微研の一部門である癩治療研究部の研究と治療活動を、民間からの寄附金基金によってまかなう仕組みができた。これは、発足当時の微研がその資金の大半を民間からの助成でまかなったという特徴の一部を形成するものであった。周知の通り、微研は、実業家山口玄洞の創設資金寄附により、1934年に大阪帝国大学内に設立された。1915年に竹尾治右衛門の寄附により設立されていた竹尾結核研究所と、大阪皮膚病研究所が、このとき微研に併合されたのである。このように見てくると、「大阪皮膚病研究会関係文書」は、微研そして大阪大学の成り立ちを知る、重要な歴史資料であるといえるだろう。



大阪皮膚病研究所（昭和18年当時）
（大阪皮膚病研究会史刊行委員会（編集担当：牧野正直・高坂健二）発行
『大阪皮膚病研究会のあゆみ』2003年、57頁より）



大阪皮膚病研究会関係文書の一部

2. 日本のハンセン病問題

さて、大阪皮膚病研究所がとりくんだハンセン病とは、どのような病なのか。ハンセン病は、らい菌による慢性の感染症であり、現在では多剤併用療法による治療法が確立されている。日本では毎年の発症者はほぼゼロとなり、すでに根絶された病であるが、発展途上国を中心に、世界にはなお流行地が存在している。ハンセン病は、適切な治療を受けられなかった場合には、治癒しても後遺症が残ることがあるため、患者のみならず元患者、そしてその家族への差別や偏見が根強く、問題をより複雑にしている。日本には現在13ヶ所の国立ハンセン病療養所が存在し、2,000名以上の入所者が生活しているが、入園者のほぼ全員が、何十年も前にハンセン病は治癒している。かれらは90年に及ぶ国の隔離政策によって、故郷とのつながりを絶たれて療養所で長い年月を過ごし、平均年齢約83歳の高齢者となるにいたっている。ハンセン病の治癒後、療養所を退所した人の数も数千名にのぼるが、その実態は明らかではない。

日本のハンセン病政策は、明治40年（1907）法律第11号「癩予防ニ関スル件」の制定によって始まった。家を出て放浪している患者はハンセン病療養所へ収容され、それ以外の大多数は、医師による警察への届出の上、自宅で療養生活を送ることになった。1907年の法律は、昭和6年（1931）法律第58号「癩予防法」へと大幅に改正された。ハンセン病療養所入所の基準は、「周囲に感染させるおそれ」＝病状の重さや症状に変更された。つまり、患者の居場所（と、それを導く個々の患者の経済状態）ではなく、ハンセン病の症状そのものが判断基準と

なったのである。

意外に思われるかもしれないが、いずれの法の下でも、ハンセン病患者は発見されるとただちに療養所へ隔離されたわけではない。多くのハンセン病患者は自宅療養を続けており、大阪でそのような患者の通院治療を行ったのが、大阪皮膚病研究所であった。

敗戦後の民主化と、アメリカで戦時中に開発されたハンセン病治療薬プロミンの導入によって、「癩予防法」改正の気運が高まり、1953年に法律第214号「らい予防法」（新法、1996年廃止）が公布されたが、この法の下でも隔離政策は継続された。2001年、療養所入所者らが起こした「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」に対する熊本地裁判決では、新法の下でのハンセン病患者の人権侵害に対する、国と国会の責任が認められた。これを契機に、日本のハンセン病問題は、著しい人権侵害の事例として、大きな注目を集めるようになった。

3. 大阪皮膚病研究所のハンセン病治療・研究

大阪皮膚病研究所の設立は、1907年法から1931年法への過渡期に当たる。つまり、ハンセン病患者の法的な処遇決定に際して、医療的な判断に比重が移る時期であった。大阪皮膚病研究所は、大阪のハンセン病患者の病状すなわち療養所へ入所する必要があるか否かを判断する役割と、当面周囲への感染のおそれがないと判断された患者の通院治療を行う役割、この両方を担ったのである。

戦前・戦中の大阪皮膚病研究所は、ハンセン病の治療法や感染経路の研究、統計・疫学的調査などを行い、同時に、日本で他に類例を見ない規模でハンセン病の外来診療を行った。特效薬プロミンがもたらされる以前、ハンセン病治療には大風子という植物の油を精製したものを用いていたが、大阪皮膚病研究所では、これを基本にさまざまな種類の薬を試し、治療法の模索が積極的に行われた。このような姿勢は、隔離政策への明確なアンチテーゼというよりは、在宅患者の症状を軽快させて、社会全体の感染リスクを下げることを自らの役割と考えたことによる。

戦時中の混乱を経て、大阪皮膚病研究会は基本財産をほぼ失ったが、戦後もハンセン病の研究と外来診療は形を変えて継続された。ここでもプロミンが使用されるようになり、療養所非

入所患者や、再発や後遺症をかかえる退所者らの医療を支えた。1991年の阪大医学部・附属病院の吹田地区移転を契機に、高齢化していた通院患者は途絶えがちになり、財団の外来診療の歴史的役割は終焉に向かった。こうして2003年、財団法人大阪皮膚病研究会はついに解散を迎えた。その際に、記念誌として『大阪皮膚病研究会のあゆみ 1929～2003』が刊行されている。

4. 「大阪皮膚病研究会関係文書」の意義

先に述べたように、本資料群の意義は、大阪大学の歴史にとって重要な大学史資料であるということにある。医学史的な見地からみれば、戦前・戦後のハンセン病外来診療の実態を伝える貴重な資料群でもある。

さらに、本資料群には、ハンセン病患者の権利回復と関わる利用の可能性が想定される。簡単にいえば、大阪皮膚病研究所での診療記録は、国からの補償を受けるための訴訟手続きにおいて、療養所に入所していなかった患者＝「非入所者」認定の証拠書類となりうるということである。詳細は解題に譲るが、この訴訟手続きを起こすことのできる期限は、2016年にせまっている。しかし、いまだ多くの非入所者が病歴を隠し、ハンセン病に関する事柄から自ら遠ざかって生きているために、こうした権利回復の措置がとられていることを知らされず、手続きを行っていないとみられることが指摘されている。

本資料群に含まれる患者個人の診療記録は、おおむね戦後の外来診療時に生成された記録であるが、そこに記録された患者数は2,100名を超える。かつてハンセン病を患い、大阪皮膚病研究所で診療を受けた人の記録は、多くの患者自身にとっては消し去りたい過去の記録であろう。しかし、記録が残されていることによって、元患者の権利回復につながる可能性があり、

また過去のハンセン病の歴史が明らかになることは、この資料群が持つ、重い、しかし重要な意義である。もちろん、個人の病歴を含む情報をアーカイブズで利用に供するに当たっては、慎重な判断が不可欠である。この点に関しても、目録に収録した論考において考察しているので、関心のある方はご一読いただければと思う。



カルテの一部

おわりに

このたび刊行した目録は、全ページが大阪大学アーカイブズ、および筆者のRead & Researchmap「資料公開」のウェブサイトより、PDFファイルの形でダウンロード可能である。多くの方にご利用いただければ幸いです。

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/ed_support/archives_room/document_list
<http://researchmap.jp/h-w/>

受贈刊行物 (2013年3月～2013年8月)

追手門学院大学

OUTEMON ECONOMIC STUDIES Vol.45 2012、追手門学院大学 心理学部紀要Vol.7、追手門学院大学アワー2012実施報告 原口泉講演会講演録、追手門学院大学将軍山会館 Newsletter No.3、追手門学院大学創立50周年記念事業 自校教育のいま 講演シンポジウム記録集、追手門学院ブックレット2 「志の教育」追手門学院大手前中・高等学校編、追手門経営論集 第18巻第2号、追手門経済・経営研究 第20号、追手門経済論集 第47巻第2号、博士学位論文 論文内容の要旨及び審査結果の要旨 第3号

大阪市立大学大学史資料室

大学史資料室ニュース 第17号、恒藤記念室叢書3 恒藤恭「欧州留学日記」(1924年)恒藤恭学長式辞集学習院アーカイブズ

学習院アーカイブズ

NEWSLETTER 第2号

学習院大学大学院

人文科学研究科アーカイブズ学専攻

平成25年入試説明会－専攻紹介・受験案内・個人相談－学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ

学専攻(チラシ・ポスター)、GCAS Report－学習院大学
大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年
報－Vol.2

神奈川県大学資料編纂室

神奈川県会議録(十四) 神奈川県史資料集 第
二十九集

金沢大学資料館

金沢大学資料館紀要 第8号、金沢大学資料館だより
Vol.39～41、金沢大学の淵源 加賀藩医学館から甲種
医学校まで、および石川県賢明学校・石川県専門学校の
歴史、人物で見る金沢大学の150年～その伝統と創造～

関西大学年史編纂室

関西大学年史紀要 第22号、平成25年度関西大学年
史資料展示室企画展 関西大学の秀麗たち－女子学
生ものがたり(チラシ・パンフレット・ポスター)、関西大学
年史資料展示室(リーフレット)

関西学院学院史編纂室

関西学院史紀要 第十九号

関東学院学院資料室

関東学院学院史資料室ニュース・レター No.16、関東
学院学院史資料集 第1号

京都産業大学

京都産業大学キャンパスマガジンサギタリウス vol.59・60

京都大学大学文書館

京都大学大学文書館(リーフレット)、京都大学大学文書
館研究紀要 第11号、京都大学大学文書館だより 第
24号

慶應義塾福澤研究センター

慶應義塾福澤研究センター通信 第18号、慶應義塾福
澤研究センター 近代日本研究 第29巻

皇學館大學館史編纂室

皇學館大學百三十年史 資料篇一、創立百三十年・
再興五十周年記念展示 神宮皇學館・神宮皇學館大
學・皇學館大学の軌跡 明治十五年～平成二十四年

神戸国際大学

観光教育とは何か、経済文化研究所年報 第22号、神
戸国際大学紀要 第84号、神戸国際大学経済経営論
集 第33巻第1号

神戸女学院史料室

学院史料 Vol.26、学報 Kobe College Bulletin No.167・168

國學院大學

校史 Vol.23、國學院大學校史・学術資産研究 第五
号、國學院大學博物館(リーフレット)

国士舘 国士舘史資料室

国士舘史資料室、国士舘史研究年報－楓原－ 第4号

駒澤大学禅文化歴史博物館

駒澤大学所蔵考古資料展 東アジアの考古学(チラシ・
ポスター)

女子美術大学歴史資料室

女子美術大学歴史資料室ニューズレター TEXNH
MAKPA 第5号

成城学園教育研究所

成城学園教育研究所研究年報 第34集、成城教育 第
159・160号

西南学院100周年事業推進室

西南学院史紀要 第8号

専修大学大学史資料課

専修大学史紀要 第5号

創価大学創価教育研究所

創価教育 第6号

大東文化歴史資料館

大東文化歴史資料館だより 第14号

拓殖大学創立百年史編纂室

拓殖大学百年史 昭和後編・平成編

玉川大学教育博物館

玉川大学教育博物館紀要 第10号

多摩美術大学

多摩美術大学研究紀要 第27号、多摩美術大学大学
院美術研究科紀要 多摩美術研究 第2号

中央大学入学センター事務部大学史編纂課

中央大学史紀要 第18号、中央大学史資料集 第25集

東海大学学園史資料センター

東海大学学園史ニュース 特別号、東海大学資料叢書3 財団法人国防理工学園関係認可申請書類

東京外国語大学大学文書館

東京外国語大学文書館 資料調査報告書1 東京外国語大学端艇部資料

東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター

東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター 活動報告書 2011-2012、平成25(2013)年度 東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター 大学史史料室利用案内

東京大学史史料室

東京大学史紀要 第31号、東京大学史史料室ニュース 第50号

同志社女子大学

京都の近代化と同志社(同志社女子大学史料室講演会記録4)、同志社女子大学史料室第18回企画展 新島八重と同志社女学校(会期延長)(チラシ)、同志社の母 新島八重

同志社大学人文科学研究所

ミッション高等教育史の可能性(チラシ)

同志社大学同志社社史資料センター

第42回Neesima Room企画展 会津と八重一八重を育てた故郷ー(チラシ・ポスター)、同志社大学同志社社史資料センター報 第9号、同志社談叢 第33号、新島研究 第104号

東北学院大学

押川方義とその時代、東北学院史料室 Vol.12

東北大学史料館

東北大学史料館紀要 第8号、東北大学史料館だより No.18

東洋英和女学院広報委員会

楓園 No.71、史料室だより No.80

東洋学園大学東洋学園史料室

最後の旧制高校 東洋高等学校ー教養教育への挑戦ー(2013年改訂版)、写真史 習志野原の東洋学園 1946-1950ー“東洋医科歯科大学津田沼キャンパス”の理想ー

富山大学

第1回 富山大学展図録 富山大学の源流、はるか明治6(1873)年

長崎大学

広報誌CHOHO Vol.43・44、地球キャンパス in Africa 長崎大学の50年

名古屋大学大学文書資料室

名古屋大学大学文書資料室紀要 第21号、名古屋大学大学文書資料室ニュース 第30号

南山学園史料室

南山アーカイブズニュース 第5号、南山学園史料集8 南山学園のレーモンド建築(上)

南山大学史料室

アルケイアー記録・情報・歴史ー7

日本女子大学成瀬記念館

成瀬記念館 No.28、日本女子大学史資料集 第五ー(五) 日本女子大学校規則[大正九年ー大正十二年]

日本大学広報部大学史編纂課

大学史編輯 叢誌 第8号、日本大学大学史編纂課だより 第4・5号

梅花女子大学図書館

梅花女子大学 現代人間学部紀要9 心理子ども学部紀要3、梅花女子大学文化表現学部紀要 9

広島大学高等教育研究開発センター

Higher Education Forum Vol.10、International Seminar Reports No.19、高等教育研究叢書119-124、コリーグ46号、戦略的研究プロジェクトシリーズVI・VII、大学教育改革の実態の把握及びそれに伴う調査分析 事業成果報告書、大学論集 第44集(2012年度)

広島大学文書館

徳毛尚子オーラル・ヒストリー「妻として・母として」、広島大学文書館紀要 第15号、広島大学文書館蔵 大牟田稔関係文書目録 資料編1、平成24年度広島大学文書館外部評価報告書

福岡大学75年史編纂委員会

福岡大学75年の歩み 資料編

法政大学史センター

法政大学史資料集 第34集、法政名所巡りー市ヶ谷
キャンパス編ー (リーフレット)

北海道大学大学文書館

北海道大学大学文書館年報 第8号

武蔵野美術大学大学史史料室

Archive&Archives 06

明治学院歴史資料館

歴史資料館ニュースレター No.4

桃山学院史料室

桃山学院史料室案内 2013年度版(リーフレット)、桃山
学院年史紀要 第32号、桃山学院の歴史 2013、桃山
学院歴史年表 桃山学院年史紀要別冊 I

立教学院史資料センター

遠山郁三 日誌1940～1943年、立教学院史研究 第10号

立命館史資料センター準備室

立命館百年史 通史三

立命館百年史編纂室

立命館百年史紀要 第二十一号

龍谷大学大学史資料室

龍谷大学史報 vol.13

国文学研究資料館

国文研ニューズ No.31・32、史料目録第96・97集、平成
25年度アーカイブズ・カレッジ史料管理学会研修会(実施
要項)

全国大学史資料協議会東日本部会

大学アーカイヴズ No.48

全国大学史資料協議会西日本部会

全国大学史資料協議会西日本部会会報 No.29

財団法人野間教育研究所

学校沿革史の研究 大学編1 テーマ別比較分析 野
間教育研究所紀要 第53集

わだつみのこえ記念館

「学徒出陣」七〇年記念 2013年 不戦へつなぐ 講演
と映画・戦没学生遺稿遺品展、『さけわだつみのこえ』読

後感想文ー学徒出陣70年を記念してー、第9回わだつ
みフォーラム 大学における戦没者追悼を考える(チラ
シ)、わだつみのこえ記念館 記念館だより No.7、わだ
つみのこえー日本戦没学生記念会機関誌ー 第138号

人と防災未来センター

資料室ニュース vol.50

あおぞら財団

あおぞら財団への寄附のお願い、応援ツアー関西×東
北 被災地の新しい1ページに出会う(チラシ)、資料館だ
より No.44・45、佃のむかし どんどこところ? 聞いて 食
べて しゃべってPART2(チラシ)、道路環境市民塾×あ
おぞら財団環境フロンティア講座 第4回市民はLRTを
つかってまちをどう変えてゆくのか、西淀川公害患者と
共に読む 西淀川公害の40年ー維持可能な環境都市
をめざして(チラシ)

秋田県公文書館

H25 秋田県公文書館事業案内(チラシ)、秋田県公文
書館 平成25年度古文書相談日のご案内(チラシ)、秋
田県公文書館研究紀要 第19号、秋田県公文書館だ
より 第28号、公文書館(新)利用案内、広報誌「古文書倶
楽部」第52号

天草市立天草アーカイブズ

天草アーカイブズ開館10周年記念誌 『天草の記憶を
未来のために』～市民とともにあゆむ天草アーカイブズ
～、平成24年度天草市立天草アーカイブズ年報 第10
号

茨城県立歴史館

行政資料目録 17 茨城県行政文書目録 (12)

岡山県立記録資料館

岡山県記録資料叢書8 岡山県史料八(明治九年・上)、
岡山県立記録資料館 紀要 第8号、岡山のアーカイブ
ズ2～記録資料館活動成果資料集～

沖縄県公文書館

沖縄県公文書館研究紀要 第15号、沖縄県公文書館
だよりARCHIVES 第44号

香川県立文書館

香川県立文書館 企画展「アーカイブズ展 2013」(チラ
シ)、香川県立文書館 収蔵文書目録第15集、香川県立
文書館 平成25年度古文書解説講座(チラシ)、香川県
立文書館紀要 第17号、平成25年度企画展示 御鷹野

殿様が村にやって来る日(チラシ)

神奈川県立公文書館

神奈川県立公文書館だより 第29号、平成24年度 神奈川県立公文書館年報

京都府立総合資料館

史料館紀要 第41号、総合資料館だより No.175・176

宮内庁書陵部

書陵部紀要 第64号・第64号〔陵墓篇〕、摂政宮と関東大震災 宮内庁の記録から(チラシ・ポスター)

群馬県立文書館

群馬県立文書館収蔵文書目録 31、群馬県立文書館だより 第50号、双文 30号

国立公文書館

アーカイブズ 第49・50号、国立公文書館 被災公文書等修復マニュアル、特定歴史公文書等の解綴・再製に伴う資料形態別留意事項調査報告書、平成24年度被災公文書等修復支援事業 全事業実施報告(概要)、平成25年春の特別展 近代国家日本の登場—公文書に見る明治—(チラシ・ポスター)、歴史を跡づける「地域のたから」、記録の保存から生まれる明日への希望—平成24年度東日本大震災被災公文書等修復支援事業報告書—

埼玉県立文書館

埼玉県史料叢書16 栗橋関所史料五、収蔵文書目録第52集 戸谷家文書目録、文書館紀要 第26号

札幌市文化資料室

札幌市文化資料室研究紀要 第5号—公文書館への道—

寒川文書館

寒川文書館だより Vol.13、寒川町史研究 第25号

東京都公文書館

東京都公文書館だより 第22号

栃木県立文書館

学校教材資料集 第9号、栃木県史料所在目録 第42集CD版、栃木県立文書館研究紀要 第17号、文書館だより 第53号

長野県立歴史館

縄文人の食物語～自然の恵みのレシピ～(チラシ)、信州の遺跡講座のご案内(チラシ)、信州の野球史(チラシ・招待券・ポスター)、長野県立歴史館 催しもの案内 2013年11月—2014年5月(リーフレット)、長野県立歴史館研究紀要 第19号、長野県立歴史館収蔵文書目録 12、長野県立歴史館たより vol.74～76、長野県立歴史館催しもの案内 平成25年度2013年4月—2013年10月(リーフレット)、平成25年度秋季企画展 刃が語る信濃 武器、象徴、そして芸術へ(チラシ・招待券)、掘ってわかった信州の歴史(チラシ・招待券・ポスター)

長野市公文書館

市誌研究ながの 第20号

新潟県立文書館

新潟県立文書館年報 第21号 平成24年度

八王子市市史編さん室

新八王子市史 資料編1・3、新八王子市史民俗調査報告書 第2集 八王子市東部地域柚木の民俗、八王子市史研究 第3号

広島県立文書館

広島県立文書館紀要 第12号、広島県立文書館だより No.37

福井県文書館

福井県文書館研究紀要 第10号、福井県文書館資料叢書9「福井藩士履歴 1 あ～え」

福岡市総合図書館

福岡市総合図書館研究紀要 第13号、平成24年度古文書資料目録 18

福島県歴史資料館

福島県歴史資料館 福島県史料情報 第35・36号、福島県歴史資料館収蔵資料目録 第44集

北海道立文書館

北海道立文書館調査研究事業報告書 第2号、北海道立文書館報赤れんが No.48

松本市文書館

松本市史研究—松本市文書館紀要—第23号

三豊市文書館

三豊市文書館だより七宝 vol.3～6

山口県文書館

文書館ニュース No.47、山口県文書館研究紀要 第40号

和歌山県立文書館

収蔵史料目録12 諸家文書目録2、和歌山県立文書館紀要 第16号、和歌山県立文書館だより 第36・37号

大阪大学未来戦略支援事務局

大阪大学 博士課程教育リーディングプログラム「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」プログラム履修生募集(チラシ)

大阪大学国際交流オフィス

2012年度 年報、2013年度 留学生日本語プログラム履修ガイド、CIEE Center for International Education and Exchange 大阪大学国際教育交流センター2012・2013、G30 International Programs、Maple Programメイプル・プログラム2013-2014、OSAKA UNIVERSITY 2013、OSAKA UNIVERSITY CIEE Center for International Education and Exchange 大阪大学国際教育交流センター、OSAKA UNIVERSITY FrontierLab@OsakaU、OSAKA UNIVERSITY PROSPECTUS 2013、OUSSEP CALENDAR 2011-2012・2012-2013・2013-2014、大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会報告書 参加団体活動概要、大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流 第17号、大阪大学留学案内 2012、国立大学法人留学生センター等における留学生交流指導体制をめぐる最近の状況、第19・21回 大阪大学・地域団体ボランティア留学生支援連絡協議会報告書、第37・38期日本語集中(研修)コース修了発表会報告書、第6回 大阪大学専門日本語教育研究協議会 研究留学生のための専門日本語教育を考える 報告書

大阪大学広報・社会学連携オフィス

OSAKA UNIVERSITY PROFILE 2013(要覧)、大阪大学ニューズレターNo.59、阪大NOW No.136・137

大阪大学総務企画部

平成25年度アーカイブズ・カレッジ史料管理学研修会(ポスター)

大阪大学研究推進部

科研費NEWS(2012.Vol.4)

大阪大学全学教育推進機構

平成25年度 全学共通教育科目履修の手引、平成25年度授業時間表 1・2年次用、平成25年度全学共通教育科目 授業担当教員マニュアル(必携)、平成25年度全学共通教育科目授業概要 I・II(シラバス I・II)

大阪大学21世紀懐徳堂

アウトリーチ活動支援(チラシ)、大阪・京都文化講座(前期) 災害・戦災の歴史ーその教訓に学ぶ(チラシ)、大阪大学×大阪ガス アカデミックキング「おとなの味」ができてるのは?〜食べ物の好き嫌いを決めるもの(チラシ)、大阪大学×大阪ガス アカデミックキング ようこそ!タンパク質ワンダーランド(チラシ)、大阪大学×大阪ガスアカデミックキング 香草・香辛料入門〜ベトナム編(チラシ)、大阪大学×大阪ガスアカデミックキング 地震はなぜ起こる?〜防災の日を前に知っておきたいこと〜(チラシ)、大阪大学21世紀懐徳堂活動報告書2012、大阪大学21世紀懐徳堂塾 OSAKAN CAFÉ おださくが歩いた大阪、大阪大学21世紀懐徳堂塾 OSAKAN Café 関西の民放初、幻の“大阪テレビ”(チラシ)、大阪大学21世紀懐徳堂だより vol.12〜14、大阪大学医学部発祥の地、中之島から。笑状を診察する落語会(チラシ)、大阪大学シンポジウム適塾創立175周年・緒方洪庵没後150年記念 医の知の未来へ(チラシ・ポスター)、しあわせな長寿に必要なこと 性格傾向からの考察(チラシ)、第45回大阪大学公開講座(パンフレット)、第9回 植物探検隊@春の待兼山を訪ねて(チラシ)、古くて新しいピアノベーゼンドルファー 1920(冊子)、ベーゼンドルファー1920演奏とお話vol.2 音楽の力、音楽の無力(リーフレット)、ホットドック学概論〜羊腸に詰められた挽肉と文化〜(チラシ)

大阪大学男女共同参画推進オフィス

大阪大学 第4回男女共同参画シンポジウム 大学におけるワーク・ライフ・バランスを進めるために、大阪大学第5回男女共同参画シンポジウム 男女がともにいきいきと働けるキャンパスを目指して、大阪大学男女共同参画 平成22・23年度報告書、大阪大学男女共同参画 平成24年度報告書、大阪大学における男女共同参画の推進のために(パンフレット)

大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室

FIRST Program AKIRA Project 免疫を探る(冊子)、大型教育研究プロジェクト支援室URAチーム(リーフレット)、大阪大学URAシンポジウム 変革の時代に直面する大学とURAの役割(チラシ)

大阪大学附属図書館

[戦前の要覧の一部]、LIBRARY INFORMATION 第18号(WEB版)、Osaka University International Studies Library Guide 2013.3. 1、Osaka University Library Life Sciences Library Guide for Members of Osaka University 2013.4、Osaka University Library Main Library User's Guide 2013.4、OUFS No.1 大阪外国語大学広報誌、石浜文庫について(リーフレット)、大阪外国語大学司馬遼太郎記念学術講演会「21世紀における日本文化の価値」(ポスター・チラシ)、大阪外国語大学司馬遼太郎記念学術講演会「日本語と日本文化の21世紀」(ポスター)、大阪外国語大学司馬遼太郎記念学術講演会「日本人のこころと現代」(ポスター)、大阪外国語大学司馬遼太郎記念学術講演会「日本文化の歴史と可能性」(ポスター)、大阪外国語大学便覧 昭和32～37年度、大阪外国語大学附属図書館特別展のお知らせ シルクロードの文化の旅、大阪外国語大学要覧 1985・1988～1990、大阪外国語大学一覽 自昭和28年度 至昭和30年度、大阪大学外国語図書館利用案内 2013.3、大阪大学図書館報 46巻3号、大阪大学附属図書館生命科学図書館利用案内 2013.4[学外・学内用]、大阪大学附属図書館総合図書館利用案内 2013.4[学内用]、鵬翼 再刊第一号・第二号 大阪外国語大学中国語同窓会誌、学生案内 1995 大阪外国語大学、学生便覧 昭和36・38～41年度 大阪外国語大学短期大学部、学生便覧 昭和38～44年度 大阪外国語大学、学生便覧 昭和41・43～44年度 大阪外国語大学第二部、国立大学法人大阪外国語大学附属図書館利用アンケート実施結果報告書、図書館にコンピュータ導入、図書館利用のために(リーフレット)、ヒンディー語文献の書誌情報及び画像データベース作成プロジェクト成果公開について、附属図書館リニューアル特別展、平成15年度大阪外国語大学学術講演会(石浜文庫記念)「モンゴル英雄叙事詩の世界ー草原を駆けめぐった武勇伝ー」(ポスター)、平成5・6年 卒業生名簿 大阪外国語大学同窓会

大阪大学大学院文学研究科・文学部

2011～2013年度 文学研究科私費外国人留学生(研究生)募集要項 研究科/一般・特定奨学金受給者、2011～2013年度 文学部私費外国人留学生(研究生)募集要項 学部/一般・特定奨学金受給者、大阪大学大学院文学研究科紹介 2013-2014、大阪大学文学部紹介 2013-2014、懷徳堂研究 第4号、懷徳堂研究センター ニューズレター No.4、フィロカリア 第30号、平成23(2011)・25(2013)年度 大阪大学大学院文学研究科 修士課程(文化動態論専攻)学生募集要項、平成23(2011)・25(2013)年度 大阪大学大学院文

学研究科 博士前・後期課程(文化形態論専攻・文化表現論専攻)学生募集要項、平成23～25年度 大阪大学大学院文学研究科科目等履修生募集要項、平成23～25年度 大阪大学大学院文学研究科研究生出願要項、平成23～25年度 大阪大学文学部学士入学生募集要項、平成23～25年度 大阪大学文学部科目等履修生募集要項、平成23～25年度 大阪大学文学部研究生出願要項、平成24年度 学生便覧 2012～2013

大阪大学大学院経済学研究科・経済学部

平成25年度 学生便覧、平成25年度 授業概要(シラバス)大阪大学経済学部、平成25年度 授業概要(シラバス)大阪大学大学院経済学研究科

大阪大学医学部附属病院

Handai Hospital 阪大病院ニュース 第50・51号、I.C.T. Monthly no.199～201号外、Nutrition News No.9、お～いNET No.121～123、大阪大学医学部附属病院 要覧 2013、支部ニュース なにわ、阪大教職組ニュース No.4(645号)

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部

SCHOOL OF DENTISTRY OSAKA UNIVERSITY 2013

大阪大学大学院薬学研究科・薬学部

平成25年度学生便覧 大阪大学薬学部 大阪大学大学院薬学研究科

大阪大学大学院工学研究科・工学部

School of Engineering Osaka University 大阪大学工学部 2014、大阪大学大学院工学研究科 平成25(2013)年10月入学博士後期課程学生募集要項、大阪大学大学院工学研究科 平成26(2014)年4月入学博士前・後期課程学生募集要項、平成25年度 工学部授業時間割表(第1・2学期)、平成25年度(2013年度) 工学部教育科目履修要覧(平成25年度入学者用)、平成25年度第1学期大学院前・後期課程用授業時間割(裏面第2学期)、平成25年度大学院履修案内

大阪大学大学院基礎工学研究科・基礎工学部

OSAKA UNIVERSITY Graduate School of Engineering Science/School of Engineering Science 2013、大阪大学基礎工学研究科・基礎工学部要覧 2013(英語・日本語版)、平成24年度 大阪大学大学院基礎工学研究科時間割表博士前期課程 1・2年次、平成25年度 大阪大学基礎工学部 学生便覧、平成25年度 大学院学生便覧、平成25年度10月入学 大阪大学大学院基礎

工学研究科博士後期課程学生募集要項[社会人特別選抜を含む]、平成25年度授業時間割表 1年次生用前期、平成25年度授業時間割表 2・3・4年次生用 第1・2学期、平成26年度 大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程学生募集要項[社会人特別選抜を含む]、平成26年度 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程学生募集要項[学部3年次生を対象とした募集を含む]・[社会人特別選抜]、平成26年度 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程推薦入学特別選考学生募集要項

大阪大学大学院言語文化研究科

言語文化共同研究プロジェクト2012 「文化」の解説(13)ー文化とコミュニティ、言語文化共同研究プロジェクト2012 英語教育の新しい潮流、言語文化共同研究プロジェクト2012 音声言語の研究7、言語文化共同研究プロジェクト2012 外国語教育の新しい局面(3)ーFacets of Foreign Language Teaching Todayー、言語文化共同研究プロジェクト2012 コミュニケーションと文学Ⅲ、言語文化共同研究プロジェクト2012 時空と認知の言語学Ⅱ、言語文化共同研究プロジェクト2012 自然言語への理論的アプローチ、言語文化共同研究プロジェクト2012 電子化言語資料分析研究2012ー2013、言語文化共同研究プロジェクト2012 ドイツ啓蒙主義研究13、言語文化共同研究プロジェクト2012 批判的社会言語学の構築、言語文化共同研究プロジェクト2012 表象と文化X、言語文化共同研究プロジェクト2012 ポストコロニアル・フォーメーションズⅧ、言語文化共同研究プロジェクト2012 レトリックの伝統と伝搬、言語文化研究39、言文だより 第30号ー言語文化研究科2012ー

大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻

ヨーロッパ I 講座 ヘルマン・ボネル先生生誕百年記念展示会

大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻

大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻 専攻案内(パンフレット)

大阪大学大学院国際公共政策研究科

OSIPP NEWSLETTER Vol.62・63

大阪大学大学院生命機能研究科

大阪大学大学院生命機能研究科 FRONTIER BIO-SCIENCE 2013、大学院生命機能研究科 学生便覧平成25年度、平成25年度 大阪大学大学院生命機能研究科博士課程第3年次編入学学生募集要項[平成25

年10月入学]、平成26年度 大阪大学大学院生命機能研究科博士課程学生募集要項[5年一貫性博士課程]

大阪大学大学院高等司法研究科

Handai Law Letter 第3号、大阪大学大学院高等司法研究科 ニューズレターNo.9～11、大阪大学大学院高等司法研究科 法科大学院 2013～2014 (パンフレット)

大阪大学産業科学研究所

大阪大学いちょう祭産業科学研究所一般公開(ポスター・パンフレット)

大阪大学蛋白質研究所

大阪大学蛋白質研究所要覧 2013、大阪大学蛋白質研究所研究レポート 平成23ー24年度

大阪大学社会経済研究所

大阪大学社会経済研究所・第10回行動経済学研究センターシンポジウム 医療現場と行動経済学(チラシ)、大阪大学社会経済研究所活動報告 2012

大阪大学接合科学研究所

TRANSACTIONS OF JWRI Vol.4 No.2 2012、大阪大学接合科学研究所 要覧 2013、阪大接合研ニュースレター No.32

大阪大学低温センター

大阪大学低温センターだより No.160

大阪大学超高压電子顕微鏡センター

大阪大学超高压電子顕微鏡センター 平成24年度年報

大阪大学ラジオアイソトープ総合センター

RI センターニュースNo.26

大阪大学環境安全研究管理センター

大阪大学環境安全研究管理センター誌「保全科学」第19号、環境安全ニュース No.48

大阪大学国際教育交流センター

2013年度留学生日本語プログラム履修ガイド

大阪大学総合学術博物館

大阪大学総合学術博物館 第16回企画展 オオサカがとんがっていた時代ー戦後大阪の前衛美術焼け跡から万博前夜までー(ポスター大・中、チラシ)、大阪大学総合学術博物館叢書9 戦後大阪のアヴァギャルド芸術ー焼け跡から万博前夜までー、日本にいた!“絶滅”

古生物 阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター(ポスター・チラシ)

大阪大学臨床医工学融合研究教育センター

大阪大学臨床医工学融合研究教育センター 臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム 2013年度履修手引

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

Communication—design [8]

大阪大学金融・保険教育研究センター

平成25年度10月入学 大阪大学金融・保険教育研究センター科目等履修生高度プログラム「金融・保険」募集要項

大阪大学科学教育機器リノベーションセンター

平成24年度 革新的研究教育基盤機器開発整備事業ならびに設備サポート事業報告書

大阪大学グローバルコラボレーションセンター

「国連政策エキスパート・キャリア形成論」一般公開講座 国際機関キャリア・ガイダンス(チラシ)、2013年度 GLOCOL海外体験型教育プログラム説明会(チラシ)、FIELDO ブラウンバックランチ(BBL)セッション OECD インターンシップのすすめ(チラシ)、FIELDO ブラウンバックランチ(BBL)セッション 海外渡航時の健康管理について(チラシ)、FIELDO ブラウンバックランチ(BBL)セッション 国際保健分野のインターンシップ・海外研修に参加しませんか?(チラシ)、GLOCOLセミナー(99) 地域おこしの現場から(チラシ)、GLOCOLセミナー(100) フィールドワークにおける語りと沈黙(チラシ)、GLOCOLセミナー(102)/グローバルエキスパート連続講座(18) 国連人口基金の活動や国連職員としてのキャリアパス(チラシ)、GLOCOLブックレット 10 中国における食品の安全・安心、GLOCOLブックレット 11 GLOCOL海外フィールドスタディによる教育と研究の連携への試み、GLOCOLブックレット 12 現代文化を読み解くプラクティス、大阪大学グローバルコラボレーションセンター 外部評価報告書 2010～2012年度、大阪大学グローバルコラボレーションセンター 年報 2012、大阪大学グローバルコラボレーションセンター (GLOCOL)海外プレ・インターンシップ助成説明会(大阪大学学部生・大学院生対象)(チラシ)、公開セミナー「多様性を活かしたまちづくり・ひとづくり」(神戸市長田区編)(チラシ)、世界難民の日関西集会(チラシ)、第25回研究者と実務者による国際協力セミナー JICA研修員受入事業への提案(チラシ)、第3回 GLOCOLプレゼンコンテスト(チラシ)、第9回 移住労働者と連帯す

る全国フォーラム・神戸2013～私たちがつくる多民族・多文化共生社会～(チラシ)

大阪大学サイバーメディアセンター

大阪大学サイバーメディアHPCジャーナル No.3、サイバーメディアセンター年報 2012年度 No.13

大阪大学レーザーエネルギー学研究センター

Seven Stars of ILE(所外版)レーザー研ニュース(CD-ROM)、大阪大学レーザーエネルギー学研究センター40周年記念写真集 光跡Ⅱ、大阪大学レーザーエネルギー学研究センター外部評価委員会報告書(平成17・20年)、大阪大学レーザーエネルギー学研究センターってどんなところ?(漫画)、大阪大学レーザーエネルギー学研究センター要覧(CD-ROM)、大阪大学レーザー核融合研究センター20周年記念写真集 光跡、大阪大学レーザー核融合研究センター第三者評価委員会報告(平成7・10年)、ガラスレーザー激光Ⅻ号光の旅(漫画)、第9回近畿地区大学放送公開講座 未来を拓くレーザー科学、未来の光を創る(パンフレット)、もっと光を!、レーザーが開くハイテクの旅(漫画)、レーザー研究 10年の進歩 Progress in Ten Years 第1・2部、レーザー研の広場 No.1～2・4～11、レーザーと未来社会、大阪大学レーザーエネルギー学研究センター外部評価委員会報告書Institute of laser Engineering, Osaka University External Evaluation Report (April,2013)

懷徳堂記念会

第125回懷徳堂春季講座 さまざまな〈在日〉文学—日本語文学の可能性—(チラシ)

大阪大学経済学部同窓会

待兼山 第29号

咲耶会(大阪外国語大学・大阪大学外国語学部同窓会)

大阪外国語大学70年史・資料集、会報「咲耶」No.1～23、新学舎落成記念 OSAKA UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES 大阪外国語大学 1981[記念はがき]

「近畿大学の大学アーカイブズと学内資料の収集・保存に関する基礎的研究」プロジェクト

「近畿大学の大学アーカイブズと学内資料の収集・保存に関する基礎的研究」研究報告書

町村敬志(一橋大学)

一橋大学平成24年度教育プロジェクト 社会科学にお

ける「資料の収集・保存・活用」教育の展開 活動報告書

吉野勝美(島根県産業技術センター所長 大阪大学名誉教授)

古い大学講義ノート 電磁気学

中尾敏充(大阪大学名誉教授)

大阪大学法学部・法学研究科の改組計画、大阪大学法学部創立50周年記念シンポジウム報告書 21世紀の法学教育と法曹養成ー日本型ロー・スクールに向けてー、第2回共同シンポジウム ネットワークとプライバシー インターネットと法情報ー予稿・資料集ー、平成12年度着手継続分大学評価報告書 全学テーマ別評価「教養教育」、平成12年度着手分大学評価報告書 分野別教育評価「理学部・大学院理学研究科」、平成13年度 入学試験制度委員会調査専門委員報告書、平成13年度着手分大学評価報告書 全学テーマ別評価「研究活動面における社会との連携及び協力」、平成13年度着手分大学評価報告書 分野別教育評価「法学系」(法学部・大学院法学研究科)、平成18年度 外部評価報告書

廣川和花(大阪大学適塾記念センター)

大阪大学アーカイブズ所蔵 大阪皮膚病研究会関係文書目録

阿部武司(大阪大学)

国立民族学博物館研究報告 2013ー37巻3・4号、平成24年度 革新的研究教育基盤機器開発整備事業ならびに設備サポート事業報告書

菅真城(大阪大学)

大阪大学経済学 第63巻第1号、大阪大学言語社会学会誌 EX ORIENTE(えくす・おりえんて)2013 Vol.20、大阪大学言語社会学会誌 EX ORIENTE(えくす・おりえんて)2013 Vol.20抜刷「池田修名誉教授に聞くー大阪外国語大学の思い出ー」、大阪帝國大學醫學部 絵葉書、大阪府立高等医学校 絵葉書、国立大学法人大阪大学利益相反マネジメント(パンフレット)、卒業記念 明治四十三年[大阪医学校 卒業アルバム]

大阪大学アーカイブズ兼任教員名簿

2013年9月1日現在

法人文書資料部門

高橋 明男	法学研究科 教授
瀧口 剛	法学研究科 教授
三阪 佳弘	高等司法研究科 教授
平尾 俊一	工学研究科 教授
中村 征樹	全学教育推進機構 准教授
阿部 浩和	サイバーメディアセンター 教授

大学史資料部門

飯塚 一幸	文学研究科 教授
竹中 亨	文学研究科 教授
澤井 実	経済学研究科 教授
廣田 誠	経済学研究科 教授
進藤 修一	言語文化研究科 准教授
廣川 和花	適塾記念センター 准教授
菅 真城	アーカイブズ 准教授

大阪大学アーカイブズ運営委員会委員名簿

◎阿部 武司	アーカイブズ室長(経済学研究科 教授)
菅 真城	アーカイブズ 准教授
飯塚 一幸	文学研究科 教授
高橋 明男	法学研究科 教授
平尾 俊一	工学研究科 教授
橋爪 節也	総合学術博物館 教授
大藤 生気	総務企画部長
奥田 正義	附属図書館事務部長
◎は委員長	

業務日誌(抄) (2013年3月～2013年8月)

2013年

・3月2日 国立公文書館所蔵資料展「国立公文書館が大阪大学にやってきた」ミュージアム・レクチャー「国立公文書館ご紹介」(講師：中島康比古国立公文書館公文書専門官)を開催。

・3月4日 河上誓作名誉教授のビデオ撮影。

・3月5日 熊本大学60年史編集室員、視察のため来室。

・3月7日 一橋大学教員4名、視察のため来室。

・3月15日 菅、全国大学史資料協議会西日本部会2012年度第5回幹事会(関西学院大学梅田キャンパス)に出席。

・3月21日 法人文書管理に関する説明会を開催。

・3月22日 赤木攻名誉教授のビデオ撮影。

・3月26日 中尾敏充教授(法)から資料受贈。

・3月27日 産経新聞社から建学の精神について電話取材。

・3月28日 大阪大学アーカイブズが「国立公文書館等」として、大阪大学アーカイブズ大学史資料部門が「歴史資料等保有施設」として内閣総理大臣に指定されたことが『官報』(号外第66号)に告示される。

・4月12日 一橋大学から空調設備について照会。

・4月15日 全学共通教育先端教養科目「大阪大学の歴史」開講。菅、「概要」を講義。

・4月19日 菅、全国大学史資料協議会西日本部会2013年度第1回幹事会(関西学院大学梅田キャンパス)に出席。

・5月16日 全国大学史資料協議会西日本部会2013年度総会・第1回研究会を箕面キャンパスで開催。阿部室長「大阪大学アーカイブズができるまで」、菅「大阪大学の歴史と大阪大学アーカイブズ」報告。

・5月17日 東京大学史史料室員、視察のため来室。

・5月24～25日 菅、東京出張。記録管理学会2014年研究大会(東京堂ホール)に出席。「大学における文書管理についての基礎的研究Ⅱ—問題点・課題の解決手法を中心に—」研究発表。

・6月10日 阿部室長、福岡出張。「国立公文書館等」連絡協議会(仮称)準備会合、実務担当者による意見交換会(福岡共同公文書館)に出席。

菅、全学共通教育先端教養科目「大阪大学の歴史」で「大阪帝国大学の創設と理学部の新設」を講義。

・6月11日 菅、福岡出張。平成25年度全国公文書館長会議及び「国際アーカイブズの日」記念講演会(アークホテルロイヤル福岡天神)に出席。

・6月20日 広報・社会学連携オフィス広報課広報係から旧制大阪高等学校資料について照会。

・7月1日 東京藝術大学教職員6名、視察のため来室。

菅、全学共通教育先端教養科目「大阪大学の歴史」で「旧制高等学校から阪大共通教育へ—大阪高等学校、浪速高等学校—」を講義。

・7月8日 保健センターからアルバム7冊受贈。

・7月23日 神戸大学附属図書館大学文書史料室職員4名、視察のため来室。

・7月25日 菅、彦根出張。全国大学史資料協議会西日本部会2013年度第2回研究会(滋賀大学)に出席。

・8月6日 韓国ソウル大学校キム司書、大阪帝国大学の調査のため来室。

・8月28日 広報・社会学連携オフィス広報課広報係から大阪大学と銀杏の関係について照会。

・8月30日 菅、附属図書館外国語学図書館で大阪大学アーカイブズについて講演。図書館職員、見学のため来室。

広報・社会学連携オフィス広報課広報係から学徒出陣について照会。



発行日 2013年9月30日
編集発行 大阪大学アーカイブズ
〒562-8558
大阪府箕面市粟生間谷東8-1-1

大阪大学アーカイブズニュースレター 第2号

Tel. (072) 730-5113
Fax. (072) 730-5114
E-mail office@archives.osaka-u.ac.jp
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/facilities/ed_support/archives_room